

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際映像メディア専門学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	映画プロデュース科		3447 単位時間	3200 単位時間	
	声優アーティスト・アニソン科		1620 単位時間	1600 単位時間	
	声優スタッフ・イベント科		1396 単位時間	1600 単位時間	
	声優科		56 単位	62 単位	
	V T u b e r 科		35 単位	62 単位	
	俳優・ミュージカル科		64 単位	62 単位	
	動画・映像クリエイター科		62 単位	62 単位	
	音響・照明・舞台スタッフ科		66 単位	62 単位	
	芸能スタッフ科		63 単位	62 単位	
	デジタルコンテンツ・情報大学科		80 単位	124 単位	
	メディア映像・大学科		96 単位	124 単位	
	研究科		29 単位	31 単位	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ <https://www.i-media.cc/information#support>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際映像メディア専門学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	https://www.i-media.cc/information#support
--------	---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025 年 6 月 10 日～ 2027 年度 定時評議 員会終結 の時	政策的観点
非常勤	団体職員	2025 年 6 月 10 日～ 2027 年度 定時評議 員会終結 の時	教育統括的視点
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際映像メディア専門学校
設置者名	学校法人国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。 ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。 ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映 ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診 ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定 ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information#support 新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。 ①学科毎に、学期末毎に、課題・試験等による学期末考査を行う(年 2 回) ②学期末考査を受ける者は、科目毎に出席率 80%以上である事が必要である ③成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)で、D 評価を不可とする ④内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として 1 科目につき 2,000 円を請求する。 ⑤学修成果の評価は成績表としてまとめ、保護者宛に郵送する ⑥上記に加え、年度末に行われる「進級判定会議」において、修了課題・公演の評価と共に、最終的な進級・卒業認定判断を行う。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。 その平均点 (G P A) により、成績の分布状況を把握する ①成績評価の数値化は、以下の通りとする A : 4、B : 3、C : 2、C- : 1、D : 0 (履修不可) ※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である ②G P Aの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページ https://www.i-media.cc/information#support
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 映画・テレビ・声優・歌手・俳優等、各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。 その目的に従い、各科目の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 C 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、1科目につき2,000円を請求する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページ https://www.i-media.cc/information#support

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際映像メディア専門学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
財産目録	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
事業報告書	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		専門課程		映画プロデュース科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
	講義			演習	実習	実験	実技		
4 年	昼	3447 単位時間／単位		400 単位時間 ／単位	192 単位時間 ／単位	2663 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	192 単位時間/ 単位	
	3447 単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
0 人		0 人	0 人	0 人		0 人		0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。 ① 9 月：学科毎に「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。 ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映 ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診 ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定 ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information#support 新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布
成績評価の基準・方法
（概要） ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。 ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可 ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する ⑤成績評価の数値化は、以下の通り A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可） ※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である ⑥GPA の計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 映画・テレビ業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。 その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。

①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること
②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること
③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること
④授業料その他納付金に未納がないこと
⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、 単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等
（概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業・課題制作相談および指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
２人 (100%)	０人 (0%)	２人 (100%)	０人 (0%)
（主な就職、業界等） (株)佐渡テレビジョン、(株)TREE Digital Studio			
（就職指導内容） 履歴書添削、面接指導、求人票の見方、業界研究 他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ビジネス著作権検定 BASIC 社会人常識マナー検定 ３級 コミュニケーション検定 ３級 無人航空機操縦士 初級			
（備考）（任意記載事項） 商業映画・ＴＶ放映作品への制作スタッフとしての参加。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
２人	０人	０%
（中途退学の主な理由） 退学者なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	声優アーティスト・アニソン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1731 単位時間／単位	256 単位時間／単位	96 単位時間／単位	1283 単位時間／単位	0 単位時間／単位	0 単位時間／単位
			1731 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
0 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画・テレビ・声優・歌手・俳優等、各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～

⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等
（概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および歌唱等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
４人 （１００％）	１人 （ ２５．０％）	１人 （ ２５．０％）	２人 （ ５０．０％）
（主な就職、業界等） （株）総合キャリアオプション			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 社会人常識マナー検定 ３級 ビジネス著作権検定 BASIC			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を経験する。アーティストライブ前座公演等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
４人	０人	０％
（中途退学の主な理由） 該当者なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	声優スタッフ・イベント科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1731 単位時間／単位	367 単位時間 ／単位	96 単位時間 ／単位	1204 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	64 単位時間 ／単位
			1731 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
0 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画・テレビ・舞台等の各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。

- ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること
- ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること
- ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること
- ④授業料その他納付金に未納がないこと
- ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。

学修支援等

（概要）

- ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業・課題制作相談および指導
- ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携
- ・スクールカウンセリング制度
- ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2 人 (100%)	1 人 (50.0%)	1 人 (50.0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)サウンドエイト			
(就職指導内容) 履歴書添削、面接指導、求人票の見方、業界研究 他			
(主な学修成果（資格・検定等）) 社会人常識マナー検定 ３級 ビジネス著作権検定 BASIC 日商簿記 ３級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	声優科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	69 単位	4 単位	34 単位	20 単位	0 単位	11 単位
			69 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		40 人	0 人	1 人	12 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等 （概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 (100%)	12 人 (70.6%)	4 人 (23.5%)	1 人 (5.9%)
（主な就職、業界等） （株）総合キャリアオプション、（株）プライムアシスタンス、（株）PANDORA 他			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 社会人常識マナー検定 ３級 ビジネス著作権検定 BASIC			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を体験する。TVCMナレーション等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	V T u b e r 科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	66 単位	17 単位	10 単位	35 単位	0 単位	8 単位
			70 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		4 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：H P にてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（G P A）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥G P A の計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等
（概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 実績なし			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 2026 年 4 月 1 期生入学			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	俳優・ミュージカル科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	68 単位	20 単位	19 単位	2 単位	0 単位	31 単位
			72 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		10 人	0 人	1 人	12 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等 （概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
５人 （１００％）	３人 （ ６０．０％）	０人 （ ０％）	２人 （ ４０．０％）
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 社会人常識マナー検定 ３級 ビジネス著作権検定 BASIC			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を体験する。イベント出演，CM出演 等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
１１人	０人	０％
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	動画・映像クリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	66 単位	4 単位	27 単位	35 単位	0 単位	0 単位
			66 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		29 人	5 人	1 人	12 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：H P にてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（G P A）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥G P A の計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等 （概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	4 人 (30.8%)	6 人 (46.2%)	3 人 (23.1%)
（主な就職、業界等） プロメディア新潟、コンテンツ・ビジョン(株) 他			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 社会人常識マナー検定 ３級 ビジネス著作権検定 BASIC			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を体験する。映画・テレビ制作スタッフ 等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	音響・照明・舞台スタッフ科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	67 単位	21 単位	10 単位	40 単位	0 単位	0 単位
			71 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		20 人	0 人	1 人	12 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等 （概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 (100%)	6 人 (54.5%)	4 人 (36.4%)	1 人 (9.1%)
（主な就職、業界等） 新潟照明技研(株)，(株)ユーケン 他			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 社会人常識マナー検定 ３級 ビジネス著作権検定 BASIC			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を経験する。各種イベント運営スタッフ 等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	芸能スタッフ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	16 単位	12 単位	36 単位	0 単位	0 単位
			64 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		8 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：H P にてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（G P A）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥G P A の計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等 （概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 実績なし			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 社会人常識マナー検定 ３級			
（備考）（任意記載事項） 2026 年 4 月で 1, 2 学年完成			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	デジタルコンテンツ・ 情報大学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	131 単位	44 単位	17 単位	70 単位	0 単位	0 単位
			131 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		1 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ② 11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③ 12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等
（概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 実績なし			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 2026 年 4 月 1 期生入学			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	メディア映像・大学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	124 単位	53 単位	29 単位	37 単位	0 単位	41 単位
			160 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		11 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：H P にてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（G P A）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥G P A の計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等
（概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 実績なし			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を経験する。イベント運営、制作スタッフ 等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	32 単位	11 単位	14 単位	1 単位	0 単位	10 単位
			36 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5 人		4 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9 月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ②11 月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③12 月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2 月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3 月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information#support>
新入生・進級年次生は 4 月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(59 点以下)、D 評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等により C 評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。
その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可）
※C-は、規定に従い、再試・再課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第 2 位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。 ①出席率：学科毎の出席時間数の８０％以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 Ｃ 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりＣ評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に再試験・再課題を課す。 ただし、別途再試験・再課題の審査料として、１科目につき２,０００円を請求する。
学修支援等
（概要） ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・３者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (66.7%)	1 人 (33.3%)
（主な就職、業界等） スターダス 21 Neo			
（就職指導内容） 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 在学中数多くの仕事を体験する。CMナレーション、出演 等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常的な出欠管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
声優科	70,000 円	810,000 円	370,000 円	施設設備費・施設維持費
声優科 オンラインコース	70,000 円	810,000 円	90,000 円	施設設備費・施設維持費
VTuber 科	70,000 円	810,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
俳優・ミュージカル科	70,000 円	810,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
動画・映像クリエイター 科	70,000 円	810,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
音響・照明・舞台スタッ フ科	70,000 円	810,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
芸能スタッフ科	70,000 円	810,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
デジタルコンテンツ・情 報大学科	70,000 円	410,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
メディア映像・大学科	70,000 円	640,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
メディア映像・大学科 (内部進学者)	0 円	130,000 円	390,000 円	施設設備費・施設維持費
研究科 (内部進学者)	0 円	310,000 円	160,000 円	施設設備費・施設維持費
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
ホームページ https://www.i-media.cc/information#support		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
専門学校の教育の質の向上を図り、学校運営の健全性、透明性、信頼性を高めるため、学生、学生保護者、専門分野企業、業界団体から委員が参画し学校評価を実施。また、学校情報の公開推進に取り組み、専門学校に対する社会的・業界的な信頼を高めることを目指す。 ・修了・卒業制作発表・公演（2月第2週前後）と同時期に評価委員会を開催。 ・以下の10項目に関して、評価表を元に、全ての科目履修成果の集大成である修了・卒業制作/公演の評価、学生授業アンケート・保護者アンケート・退学抑止状況等資料を元に、質疑応答の上、評価・採点を行う。 ・採点は、適切4点、ほぼ適切3点、やや不適切2点、不適切1点とする。 ・評価委員会での結果は自己評価表にまとめて学校ホームページに掲載する。 ・評価委員会での結果は教職員会議でも共有、次年度教育課程・シラバスに反映させる。		
学校関係者評価の大項目		
①教育理念・目標(学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 等)		
②学校運営(教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 等)		
③教育活動(関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携がなされているか 等)		
④学修成果(業界就業率・企業就職率の向上が図られているか 等)		
⑤学生支援(進路・就職に関する支援体制は整備されているか 等)		
⑥教育環境(施設・備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 等)		
⑦学生の受入れ募集(学生募集活動は適正に行われているか 等)		
⑧財務(予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 等)		
⑨法令等の遵守(自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 等)		
⑩社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等)		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ハピッツ	任期は特に設けず、年度末時点で、諸事情により、委員辞任の申し出が無い場合は、年度毎に自動的に継続するものとする。	企業等委員
有限会社アペックス・株式会社オールウェイズ	任期は特に設けず、年度末時点で、諸事情により、委員辞任の申し出が無い場合は、年度毎に自動的に継続するものとする。	企業等委員
新潟県フィルムコミッション協議会	任期は特に設けず、年度末時点で、諸事情により、委員辞任の申し出が無い場合は、年度毎に自動的に継続するものとする。	企業等委員

学校関係者評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 公表時期…毎年 7 月（翌年度）を目途に自校HPにて公開 https://www.i-media.cc/information#support
（備考）
第三者評価，未実施．次年度以降に実施予定

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.i-media.cc/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が 1 人以上 10 人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が 0 人の場合には、「0 人」と記載すること。

学校名	国際映像メディア専門学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		31 人	27 人	31 人
内 訳	第Ⅰ区分	12 人	11 人	
	第Ⅱ区分	2 人	3 人	
	第Ⅲ区分	8 人	3 人	
	第Ⅳ区分	1 人	1 人	
	第Ⅳ区分	1 人	2 人	
	区分外(多子)	7 人	7 人	
家計急変による支援対象者（年間）				0 人
合計（年間）				31 人
(備考)				

※本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第 8 号）第 4 条第 2 項第 1 号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第 49 号）第 2 条第 1 項第 2 号イ～ニに掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	0 人	0 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0 人	0 人	0 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0 人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当	0 人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	０人	前半期	０人	後半期	０人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	０人
３月以上の停学	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	０人
訓告	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0 人	0 人	0 人
G P A等が下位4分の1	0 人	0 人	0 人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0 人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。